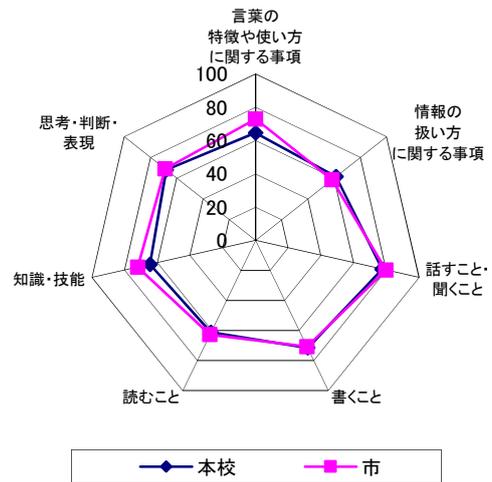


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.7	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	61.5	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	77.4	79.8	75.9
	書くこと	71.5	70.7	71.7
	読むこと	61.3	62.8	62.5
観点別	知識・技能	64.5	72.0	74.4
	思考・判断・表現	68.2	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

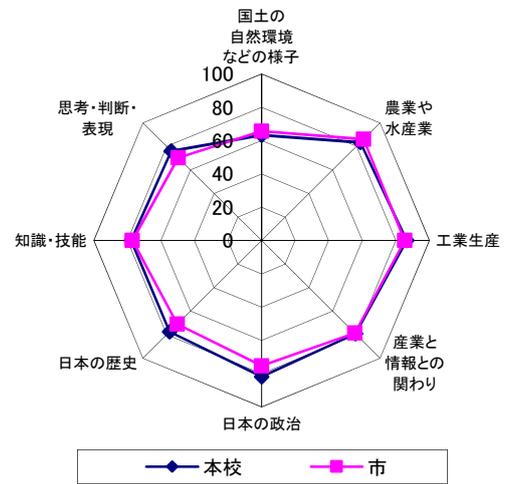
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、8.3ポイント下回っている。</p> <p>●特に5学年の配当漢字を書く問題では、本校の正答率が低い。また、無回答率が市の無回答率と比べて10ポイント以上高く、漢字の習得に課題が見られる。</p>	<p>・授業や家庭学習等で、文字を書く時には現学年の漢字だけでなく、既習の漢字も日常的に使わせることで、定着を図る。また、習った漢字を使った熟語を集めるなど語彙を増やす取り組みを行っていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、3ポイント上回っている。</p> <p>○日頃より、総合や社会科において資料を使った調べ学習に取り組んできた成果であると考えられる。</p>	<p>・今後も、国語以外の教科においても、資料を扱う学習を行っていく。また、取り出した情報が的確であるか交流・検討ができるような授業を進めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、2.4ポイント下回るが、全国正答率よりは高くなっている。特に、考えをまとめる設問については、市の平均正答率よりも2.3ポイント高くなっている。</p> <p>○日頃より、相手の話した内容を正しく聞き取ることを授業で行っている成果であると考えられる。</p>	<p>・今後も、国語の授業に限らず、日頃から自分の考えと比較しながら相手の話を聞く習慣を身に付けられるよう指導していく。</p>
書くこと	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると0.8ポイント上回っている。</p> <p>○自分の意見をしっかりとち、理由を明確に書くことができている。</p> <p>●指定された長さで文章を書いたり、説得力が増すような内容を付け加えたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で、伝えたいことを要約して書き表す課題を与えて、指定された長さで文章を書く経験を積ませる。国語で学んだことを他教科でも活かしていくことで、書く力の向上を図っていく。</p>
読むこと	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.5ポイント下回っている。</p> <p>●登場人物の心情を捉えることはできているが、どんな描写が物語全体の変化を表すのに重要な意味をもつのかに気付くことには課題が見られる。</p>	<p>・学校図書館を活用し、物語に触れる機会や没頭する時間を十分に確保していく。また、感想を交流するなど細やかな情景描写などにも目を向けさせて、全体を見通しながら読み取ることができるようにする。</p>

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.3	65.7	67.0
	農業や水産業	83.3	86.1	77.5
	工業生産	86.5	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	79.2	78.6	69.6
	日本の政治	81.8	75.2	65.8
	日本の歴史	77.6	71.1	69.1
観点別	知識・技能	77.7	77.0	72.8
	思考・判断・表現	76.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

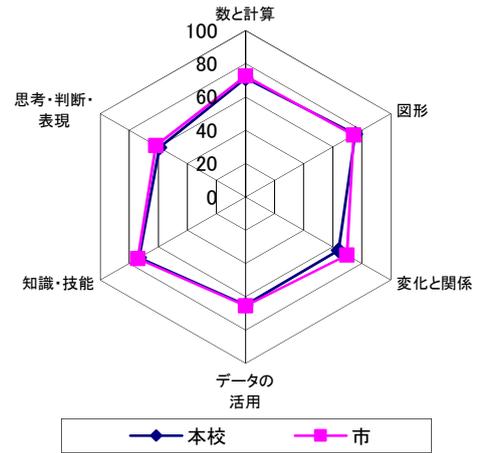
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●平均正答率は、市と比較すると2.4ポイント低い。特に「日本の周辺の国と領土の端についての理解を問う問題」の正答率は56.3%で市と比較すると6.3ポイント低い。また、「日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断しているか」の正答率は、33.3%で市と比較すると5.4ポイント低い。	・関係資料や地図帳などを活用したり、各地方の気候の特徴を 雨温図と照らし合わせながら1つ1つ確認したりすることで知識の定着を図る。
農業や水産業	●平均正答率は、市と比較すると2.8ポイント低い。特に「米づくりの作業の理解をもとに資料を読み取る問題」の正答率は75.0%で市と比較すると7.6ポイント低い。	・関係資料の活用による知識の定着を図るとともに、与えられた資料からどんな情報を得ることができ、そこからどんなことが推測されるのかを考える機会を設ける。
工業生産	○平均正答率は、市と比較すると1.1ポイント高い。特に「電気自動車に着目して環境に配慮した生産された自動車について考えガソリンカーと比較して表現する問題」の正答率は81.3%で市と比較すると2.9ポイント高い。	・児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。
産業と情報との関わり	○平均正答率は、市と比較すると0.6ポイント高い。特に「情報の正しい受け取り方についての理解を問う問題」の正答率は93.8%で市と比較すると2.2ポイント高い。	・児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。また、日頃から情報の正しい取り扱いに触れる機会を増やし、情報モラル教育の充実に努める。
日本の政治	○平均正答率は、市と比較すると6.6ポイント高い。特に「日本国憲法に着目して日本国民の権利及び義務について捉え判断する問題」の正答率は97.9%で市と比較すると10.4ポイント高い。	・児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。さらにニュースや新聞等で話題になった政治関連の話を授業で取り入れて、理解を深めていく。
日本の歴史	○平均正答率は、市と比較すると6.5ポイント高い。特に「弥生時代の人々のくらしに着目して米づくりが広まったことについて考え判断する問題」の正答率は93.8%で市と比較すると20.6ポイント高い。	・児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。 ・様々な資料の読み取りができるように授業で積極的に資料を活用していく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.2	72.6	71.6
	図形	75.5	74.4	72.0
	変化と関係	64.2	69.8	62.6
	データの活用	64.9	65.5	59.1
観点別	知識・技能	73.2	74.1	68.9
	思考・判断・表現	59.2	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

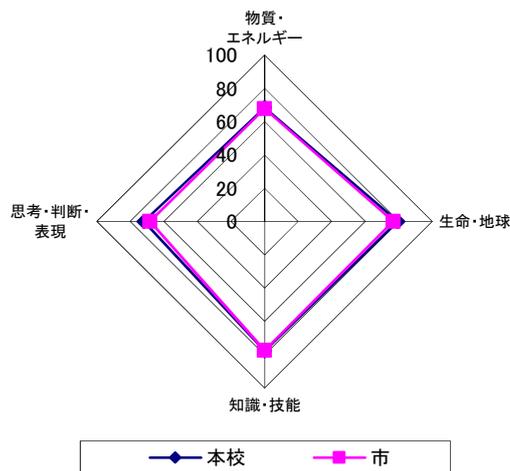
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.4ポイント下回っている。</p> <p>○面積が一定の平行四辺形の底辺と高さの関係を表した式をもとめる問題の正答率は、市の平均正答率より、6.7ポイント高い。</p> <p>●文章を読み、問題の場面を理解して図を選ぶ問題は、市の平均正答率より、14.1ポイント低い。</p>	<p>・文章問題の正答率が低いことから、ドリルやプリント等で文章問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>・文章題の内容を説明し、問の意図を理解させる指導を習熟度別学習などを活用して取り組む。</p>
図形	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.1ポイント上回っており、やや高い。</p> <p>○面積と体積の求め方の問題は、市の平均正答率より高い。特に大毛の面積を求める問題は10ポイント高い。</p> <p>●合同な三角形の作図を問う問題は、市の平均正答率より25ポイントほど低い。</p>	<p>・図形の持つ特徴を再確認し、定着を図れるよう、具体物を操作したり、ICTを活用したりしながら学習し、視覚的に理解できるように進めていく。</p>
変化と関係	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると5.6ポイント下回っており、低い。</p> <p>○単位量あたりの大きさ・速さで公式を使って答えを導く問題の正答率は、全国の平均正答率より2.7ポイント高い。</p> <p>●求め方を言葉や式を使って説明する問題は、市の平均正答率より、10.7ポイント低いが、無回答が45.8ポイントであった。</p>	<p>・単位量あたりの大きさ・速さは理解できていると思われる。公式を活用して様々な問題を解き、その解き方を言葉で説明するなど問題解決の過程を確認させるような学習を取り入れていく。</p>
データの活用	<p>領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると0.6ポイント下回り、やや低い。</p> <p>○最頻値を問われた問題の正答率は、市の平均正答率より、24.3ポイントと著しく高い。</p> <p>●グラフから読み取ったことを、理由とともに具体的に説明する問題では、市の平均正答率より10.8ポイント低く、無回答も18.8ポイントであった。</p>	<p>・割合を表したグラフの問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>・問の意図を理解させる指導を習熟度別学習などを活用して取り組む。</p>

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.4	67.8	64.1
	生命・地球	79.4	76.7	78.3
観点別	知識・技能	77.7	77.4	78.3
	思考・判断・表現	71.9	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>領域の平均正答率は68.4%で、市の平均正答率と比較すると0.6ポイント高い。</p> <p>○電磁石の性質やものとのけ方の特徴を良く理解しており、普段から実験の手順や結果をしっかりと確認しながら授業を進めている成果が表れていると考えられる。</p> <p>●塩水から塩を取り出す方法を説明する文に合う言葉を考える問題の平均正答率は58.3%で、市の平均正答率と比較すると13.9ポイント下回っており、前後の文章との整合性を図りながら言葉を考える問題に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、実験の方法や結果、まとめを意識させながら授業を進めるとともに、過去の学習内容も機会を見て振り返らせ、学習内容の確実な定着を図る。 問題文を読んで、重要な語句に線を引かせて注目させたり、キーワードから文を組み立て、クラス全体でよりよい表現を検討したりするなど、語彙力や読解力の伸長を図る。
生命・地球	<p>領域の平均正答率は79.4%で、他の領域より高く、市の平均正答率と比較すると2.7ポイント高い。</p> <p>○食べ物が消化管を通る順を問う問題の平均正答率は97.9%で非常に高く、市の平均正答率を12.5ポイント上回っており、学習内容がしっかりと定着していると考えられる。</p> <p>●生物とかんきょうで、ポリエチレンの袋の中に息を吹き込んだ理由を問う問題の平均正答率は66.7%で、市の平均正答率と比較すると13ポイント下回っており、実験の目的から方法を考えることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物やICT機器などを利用し、五感を通して繰り返し理科の用語や学習内容を復習させ確実な定着を目指す。 学習課題の確認を行い、しっかりした目的意識を持って、実験に取り組みせるとともに、結果が出るまでに時間を要する実験では、まとめの段階でもう一度実験の目的や方法について振り返るようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって主体的に課題解決できる指導方法の工夫	各教科の特性を踏まえて、児童から多様な意見が出る課題や実生活に関連した課題を設定するなど意欲を引き出す課題を設定し、各教科における「見方・考え方」を意識した学習活動や発問を工夫した授業を行う。	算数科における文章問題や答えの求め方を言葉や式を使って説明する問題の正答率が市の平均正答率より低い。また、無回答も多い。理科においても、説明する問題に関する正答率が市の平均正答率より低い。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して共有しながら学び合える場の設定を行い、児童同士の学び合いの中から、思考することの楽しさや喜びを感じ自信がもてるよう、課題解決学習を繰り返し行う。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の質問に対しては、肯定的に回答した児童の割合がほとんどの学年で市の割合を上回っている。上回っていない場合も市と変わらない肯定的割合である。「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対しては、3、4、5、6年生の肯定的割合が高く、95%を超えている。「自分の考えを根拠を挙げながら話すことができる」の質問に対する回答の肯定的割合は、回答した4学年のうち、3、4、5年生において市の肯定的割合よりかなり上回っている。 国語の「言語の特徴や使い方」に関する正答率が市の平均正答率より低い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科の「見方・考え方」を意識した授業展開を継続し、その中で、各教科特有の「言葉」に着目し説明したり文章を書いたりするなどの言語活動を意識的に取り入れていく。

「授業への取り組み」や「学習に対する気持ちや態度」についての質問に対する肯定的割合が市の平均と比べて高いものが多い、学ぶことへの意欲は高いので、各教科において課題設定を工夫し、課題解決学習を繰り返し行う。また、今後も学習活動における学び合いを重視し、友達の考えを方を通して、自らの考えをより具体的・客観的に捉えられるような機会を多く設け、学力の向上を図る。

インターネットやパソコンを使用して、調べたりまとめたりすることへの肯定的回答については、学年によって差があるので、児童の実態や発達段階に即したタブレットの効果的な活用法を行えるようにする。